



# 会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

## 発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
発行責任者 横地帯広  
編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号  
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722  
ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1 臨地実習のあり方WGより提言書を提出

P2～P4 全国「検査と健康展」2024 各地からの報告 最終回

P4 令和6年度 日臨技事業説明 オンデマンド研修 を開催中!

P5 茨城県臨床検査技師会 茨城県と災害支援協定（災害時の医療救護活動についての協定）を締結

## 臨地実習あり方WGより提言書を提出

臨床検査技師の養成教育カリキュラムは、2022年4月の入学生から改正されているが、改正内容を議論した厚労省検討会では、5年をめぐりに新たな見直しを検討するとされている。

この度、日本臨床衛生検査技師会（日臨技）の臨地実習あり方ワーキンググループ（WG）では、次期改正を見据えた臨床検査技師の養成教育カリキュラムにおける提言書をまとめた。これらの内容は、日臨技が主体となり、日本臨床検査学教育協議会（日臨教）とともに臨地実習の現状に対する課題を整理し、その解決に向けて議論しまとめたものである。また、その内容については、臨地実習指導者からパブリックコメントを募集し、いただいた意見をWGにて再議論しブラッシュアップしている。提言書は、3月1日（土）にWG委員長の山寺幸雄（日臨技副会長）より、日臨技の横地会長及び日臨教の坂本理事長に提出された。

今後は、両団体が本提言を踏まえ、その内容を吟味したうえで、厚労省・文科省へ提出する次期カリキュラム改正のための要望書の作成に着手されることを期待する。以下に今回提出した提言書の概要を示す。

（臨地実習あり方WG委員長 山寺 幸雄）



### 臨床検査技師養成教育カリキュラム等における 臨地実習の各論点課題に対する意見とりまとめ提言書 概要

○近年の医療環境の変化や質の向上に対応するため、臨床検査技師養成教育カリキュラムにおける臨地実習は時代の変革に合わせて都度の見直しが必要となる。本提言書は、日臨技が主となり日臨教とともに整理を行うこととなった臨地実習の現状に対する以下5つの課題について、専門のWGにより整理のうえ、意見をとりまとめ、その解決に向けた具体的な提言をまとめたものである。

#### <課題内容>

- (1) 臨地実習施設における学生受入れの実態把握
- (2) 臨地実習の進捗と達成度を明示的に評価できる仕組みの検討
- (3) 臨地実習時に学生が経験すべき行為の見直し
- (4) 学生と臨地実習施設のマッチングができる仕組みの検討
- (5) 臨地実習指導者の考えをまとめ、Scope と到達目標の検討

○日臨技及び日臨教には本提言を踏まえ、その内容を適切に吟味したうえで、令和8年度より予定開始される次期カリキュラム改正のために国へ提出する要望書の作成に着手されることを期待する。

○新制度の臨地実習へ移行中だが、学生の受け入れ体制や進捗・達成度の評価方法が施設ごとにばらつきが見られるほか、学生が経験すべき行為の基準も十分に統一されていない状況にある。また、学生の実習施設配属や、実習指導者の役割・配置体制においても改善の余地があり、施設間での地域格差や指導者負担の増大が顕在化している状況にある。

これらの課題に対し、本提言書は以下の解決策を提案する。

#### 1. 進捗・達成度評価の標準化と統一基準の策定

実習前評価と臨地実習中の進捗評価を標準化し、現場の負担を軽減しつつ、教育の質を高める仕組みを導入するよう提案する。

#### 2. 学生が経験すべき行為の再検討

行為内容の見直しにおいて、“スパイロメトリー”は段階的教育目標として整理し、実施要件を柔軟に設定するよう提案する。“尿沈渣の観察”は実施必須として加えることを提案する。また、患者同意と倫理的配慮をスムーズに行える体制を整備するよう提案する。

### 3. マッチングシステムの構築

広域的なサポート体制と既存システムの活用による施設情報の可視化を推進し、学生と実習施設の円滑な配属を実現出来るよう提案する。

### 4. 指導者体制の強化

臨地実習指導者の役割をより明確化し、各施設における配置の安定化を図るとともに、学校養成所による定期的な施設訪問を必須化するよう提案する。

○本提言が実現すれば、臨床検査技師養成の教育・実習の質が向上し、次世代の医療人材の育成に大きく貢献すると期待される。厚生労働省や関係機関との連携を通じて、臨地実習がより効果的で現実的な仕組みとなるよう、今後も引き続き検討を進めていく。

## 全国「検査と健康展」2024 各地からの報告 最終回

### 福岡県

令和6年11月17日(日)に福岡地区主催でイオンモール筑紫野3Fイオンホールにて全国「検査と健康展」を開催いたしました。今回ですがニュースや新聞等に出生数は減少し少子化が進んでいるとのことでしたので、未来の臨床検査技師の確保をどうようにしていくかということを考え、開催テーマを「臨床検査技師という職業を老若男女問わず県民に幅広く知っていただく」としました。



開催内容としましては、やはり実際に機器に触れていただき臨床検査とはどのようなものなのかを知ってもらうことが重要であると考え体験型を中心として顕微鏡観察を主体に計画し、血液型検査の疑似体験や肺機能検査なども実施しました。幼稚園児や小学生に向けては聴診器や白衣を着ての写真撮影を企画し、高齢者に対しては脳年齢を測定する事で日常の検査に対する意識向上に繋がるようにしました。また、塗り絵やバルーンアート(事務局役員が実施)を開催することで小さなお子様がいらっしゃるご家族でもゆっくりと参加できるよう配慮いたしました。開催自体については大きなトラブルもなく無事に終了することができ、今回のテーマであった「臨床検査技師という職業を老若男女問わず県民に幅広く知っていただく」を達成できたものと考えます。

(福岡県臨床衛生検査技師会 稲子 勝秀)

### 佐賀県

2024年12月1日(日)に2024年度「検査と健康展」in佐賀を、昨年に引き続き佐賀市の大型商業施設(ゆめタウン佐賀)において開催いたしました。多くの買い物客で賑わうなか、臨床検査技師のお仕事体験では「顕微鏡で観察」に191名、「エコーでの観察」はフルーツゼリーの中身当てに78名、胎児用ファントムの観察に74名、健康チェックでは「体組成測



定・握力測定」に220名、血管年齢に94名、乳がん触診モデルを使った乳がんセルフチェック体験に63名体験いただきました。各コーナーは、ご家族連れから高齢者の方まで大変好評でした。その中で、アンケートに協力いただいた257名の方の約71%が臨床検査技師を知っていると回答をいただきました。臨床検査に関する知識の普及や啓発、臨床検査技師を知っていただく良い機会となりました。最後に、参加していただいたスタッフや関係者の皆様に感謝申し上げます。

(佐賀県臨床検査技師会 石橋 徳子)

### 長崎県

今回の会場は長崎市内の繁華街にあるアーケードで開催したため、小さい子どもや中高生を含めた多くの市民の方に「臨床検査技師」の知名度アップができたと思います。また、来場者ひとりひとりに丁寧な対応ができたため多くの方々から感謝の言葉ももらい「催し物」として成功であったと思います。

高齢の来場者から「気になっていた検査値のことが分かり良かったです」とか、「丁寧な説明をしてもらい感謝します」との感想や、中高生で技師養成学校の説明を受け「進路の一つとして考えてみようかな?」と話され検査技師に対する認識が少しでも上がったのではないかと感じました。

「子ども白衣」を着てもらい撮影するブースを設営し記念写真を撮影していただきました。中には白衣を着て横の顕微鏡体験コーナーの顕微鏡を覗きながらポーズを取りたいと言われる子どもさんもおられ、いろいろなポーズを決めご家族に写真を撮ってもらっており微笑ましい感じで好評でした。

「顕微鏡観察」では、保育園年長さんから小学生に興味をもってもらい顕微鏡を覗く様子がほのぼのとしていました。また、お子さんと一緒にご家族も覗かれ、大人の方だけでも興味を持って参加される方もいらっしゃいました。

耳にしたのは「なかなか顕微鏡を覗くということはいできないからいい体験になった」と言う言葉をいただ



きました。そして、「細菌が好き！」というお子さん  
もいてビックリさせられました。

当日は、テレビ局の取材が2時間ほどあり「臨床検査技師」の紹介と催し物の様子を放送する予定であると聞きし、私たちの仕事をより分かっていただく良い機会になると思いました。

(長崎県臨床検査技師会 平田 哲也)

今回は受診者が例年より少なかったため一人一人に十分な検査説明を行うことができました。納得するまで話をするためには、検査知識、コミュニケーション能力、そして話す相手の立場になり話すことができるかがとても大事だと感じました。受診者からは「来年もお願いします!!」との声を聞くこともでき、開催の意義をととても感じました。来年度は一般市民の皆様にも臨床検査技師の名を今以上に知ってもらえるような企画を考えたいと思います。

(大分県臨床検査技師会 渡部 亨)

## 熊本県

令和6年11月30日  
(土)熊本市に接してる  
嘉島町にある総合商業施設イオンモール熊本にて



全国「検査と健康展」を開催しました。昨年まではコロナウイルス感染症のことを考慮し、検査体験を行っていませんでしたが、今年から感染対策を万全にし、骨密度、血管年齢、体組成の体験コーナーを復活させました。さらに日臨技からお借りした認知症スクリーニング検査のできる機材で新たな検査体験も行うことができました。リーフレットは時間内の早い段階で配布が終了するなど来場者の興味を伺うことができました。血管年齢の人气が高く盛況でした。受検者は少なかったですが認知症検査へは老若男女を問わず質問がありました。臨床検査技師の認知度は高く、来場者の健康や疾患への興味が深いことを感じることができました。

(熊本県臨床検査技師会 田中 信次)

## 宮崎県

令和6年11月4日  
(月)宮崎アートセンターにおいて、全国「検査と健康展」(宮崎)



を開催いたしました。今回は、場所を変えて美術展示などが行われるアートセンターで実施しました。宮崎市民にはなじみがある場所で、盛大に行うことができました。

今回は、宮崎市教育委員会の協力のもと、チラシを小中学校の連絡ツール(マチコミなどの連絡メール)で配信していただき、締め切り前に予約がいっぱいになりました。臨床検査技師のお仕事体験には保護者と一緒に来場された高校生以下の子どもさんから薬学部などの大学生まで参加していただき、尿検査(疑似尿)、シミュレーターを使用した採血、超音波検査、心電図検査などをたくさんの方に体験していただきました。「検査と健康展」が目指す臨床検査技師の認知度アップには大きな貢献ができたのではないかと思います。

健康チェックでは、血管年齢、ベジチェックを実施し、「健康な食生活を心掛けたい」、「生活習慣病の予防にも努めたい」などの感想をいただきました。各コーナーでお待たせすることなく、スムーズな開催ができました。参加していただいた皆様、ありがとうございました。

(宮崎県臨床検査技師会 坂下 香代子)

## 大分県

大分県臨床検査技師会では令和6年11月23日、昨年同様にあけのクロス大ホールをお借りして「検査と健康展」を開催



しました。今回は「検査技師のみでしっかりした丁寧な検査説明を!!」を目標に簡易Hb測定、肺機能検査(肺年齢)、Inbody(体組成分析)ストレス血管年齢、簡易心電図検査(四肢誘導)、そして認知症検査(もの忘れチェック)の6項目の検査を行いました。すべての検査で検査実施者、検査説明者を配置して時間をかけた丁寧な検査説明を行いました。特にInbody(体組成分析)ストレス血管年齢、認知症検査(もの忘れチェック)は一般市民の方々にはとても興味がある検査であり検査技師による検査説明を真剣に聞いている姿がとても印象的でした。

また、体験コーナーでは各検査のパネル展示、顕微鏡を使用した臓器の標本観察を行いました。多くの方々がパネル展示を見る中、1人の臨床検査技師を志す高校生が熱心に顕微鏡標本をみて細胞検査士の話に真剣に聞き、また多くの質問をしていました。対応した細胞検査士も「未来の臨床検査技師のために臨床検査技師とは!?細胞検査士とは!?」を熱く語っていました。

## 鹿児島県

2024年12月8日(日)に第10回「全国検査と健康展」in鹿児島をセンテラス天文館6Fホールで開催いたしました。鹿児島



の中心街でもあるため、昨年よりも28名多く来場していただきました。今年度、開設された鹿児島天文館メディアカルカレッジ臨床検査学科の学生も多数参加し、「検査と健康展」における臨床検査技師の役割と利用者に対する接遇の在り方などを学び、各検査技師の方々との交流を経験する場となりました。

会場受付前では鹿児島大学大学院法医学分野の先生

方と入浴事故におけるアンケート調査も実施しました。ヒートショックについて関心の高い時期であったため、多くの利用者に協力をしていただけました。また、認知症相談プログラムも実施し、簡易な物忘れチェックができることも、大変喜ばれていました。市民の情報提供と将来を担う学生・新人への交流・教育の場として、この「検査と健康展」を引き続き開催し、臨床検査技師から医療の輪ができることを期待したいと思います。

(鹿児島県臨床検査技師会 入木 猛利)

## 沖縄県

令和6年11月24日(日)に、イオン南風原ショッピングセンターにて全国「検査と健康展」を昨年に続き開催しました。



今年度は新聞告知は行いませんでしたが、沢山の皆さまに会場へいただけました。アニメ『働く細胞』の影響か、小さな子供たちからマクロファージやT細胞などの発言もあり、鋭い質問にスタッフがたじたじとなる場面も見られました。昨年の進路相談コーナー

は高校生や中学生が中心でしたが、今年度は数名の小中学生親子が臨床検査技師になるためにはどうしたらいいのかと真剣に話を聞いておられました。幅広い層に臨床検査技師の仕事が認知されてきていると感じ、この結果が歴代の先輩方の努力のたまものであると思うと感慨深いです。

今回は琉球大学の学生からボランティアの希望があり1年生から3年生まで5人の学生が参加してくれました。実際に接客・検査説明などをしてもらいましたが一生懸命取り組んでいる姿は学生と思えないほど素晴らしく、数年後に一緒に仕事ができるのが楽しみです。人気のある血液・病理細胞の顕微鏡もさることながら、一般で展示した寄生虫ブースも常に人が途切れず、今年は何のブースも大盛況でした。興味を持ってもらうために忙しい中アイデアを出し合ってブースを作り上げたスタッフの努力にも感謝します。

(沖縄県臨床検査技師 登川 雅子)



ご来場いただいた皆様、ご協力いただいた会員の皆様、ありがとうございました！

## 令和6年度 日臨技事業説明 オンデマンド研修を開催中！

会員の皆様に日臨技の各事業について理解を深めていただくため、令和6年度地域ニューリーダー育成研修会の事業説明コンテンツを公開します。オンデマンド研修として、会員専用ページから無料で申し込み、受講ができます。申込締切は3月25日、受講期限は3月31日となります。是非、お早めにご参加ください。

### 【コンテンツ内容】

1. 横地会長挨拶
2. 総務・広報・システム・渉外の概要 (代表理事副会長 竹浦久司)
3. 学会・認定の概要 (代表理事副会長 西浦明彦)
4. 学術・教育研修全般・生涯教育の概要 (代表理事副会長 山寺幸雄)
5. 国際・出版・認定 (専務理事 小松京子)
6. 精度管理・学会・支部 (常務理事 神山清志)
7. 精度保証・政策渉外 (常務理事 益田泰蔵)
8. チーム医療/タスク・臨地実習・検体採取 (執行理事 桑原喜久男)
9. 教育研修・人材育成 (執行理事 宮原祥子)
10. 組織運営・事務運営 (専務理事 深澤恵治)
11. 広報・災害・システム (執行理事 直田健太郎)
12. 財務・会計・共済 (執行理事 原田典明)

会 期：令和7年3月1日(土)から3月31日(月)

申 込 期 間：令和7年2月25日(火)～3月25日(火)

受 講 料：無料

点 数 付 与：生涯教育研修制度 基礎教科 20点

申込・受講方法：会員専用ページより①事前参加申込み

→ ②事前参加申込済一覧から受講



## 茨城県臨床検査技師会

# 茨城県と災害支援協定(災害時の医療救護活動についての協定)を締結

茨城県臨床検査技師会 会長 大塚 光一

茨城県臨床検査技師会は、2025年2月に茨城県との災害支援協定の締結に至りました。茨城県との最初のコンタクトは昨年6月になりますが、既に協定を結んでいる他県の技師会や日臨技からのアドバイスなどを得ながら協議を進めてきました。今回、協定を結ぶまでの内容を時系列として報告します。

2024年6月、茨城県保健医療部保健政策課に対し、臨床検査技師による災害支援についてのお話させていただきたく県庁へ訪問したい旨を連絡。なお、訪問に先立ち、災害時での臨床検査技師による業務深部静脈血栓症(DVT)検診等についての資料を送付した。

7月、技師会3役で保健政策課担当者と面談。臨床検査技師による災害支援は行政主導の保健衛生活動として携わるようになってきており、茨城県と災害支援協定を締結したい考えを説明した。県としては、災害支援については医師会との調整が不可欠との認識であった。

8月、茨城県医師会と電話会談。医師会より、災害支援については臨床検査技師会とも連携・協力して実施していきたいと、まずは茨城県と協定を結んでほしいとの話があった。

9月、医師会の意向も確認されたことにより、県との事実上の協議がスタート。まずは、災害支援協定の実効性の把握として、①医療救護活動としての業務内容及び②実際に派遣可能、あるいは派遣される意思がある者の人数の回答が求められた。①は他県の協定書を参考に理事会審議を行い、②は施設連絡責任者を通してDVT検査が可能な人の調査を行うとともに、会員一斉メールにて災害支援の意思があるかの意識調査を実施した。

10月、実効性の把握に関する検討結果を県への報告。①の医療救護活動としての業務内容は、「DVT検診、採血及びPOCTによる検査(D-ダイマーや心筋マーカー)、インフルエンザ等感染症疾患の検体採取及びPOCTによる検査、弾性ストッキング着脱指導、その他茨城県臨床検査技師会が対応可能と判断した業務」として理事会承認を得たことを報告した。②のDVT検査が可能な技師数は、調査結果より46名であると報告した。なお、災害支援の意思表示者が少なく、現時点での把握の確認は困難であることも追記した。

11月、県より、実効性把握として更に①臨床検査技師会の会員数及び日本臨床衛生検査技師会の会員数と②能登半島地震に茨城県からも技師を派遣したか？の

回答が求められた。茨臨技及び日臨技の会員数と、能登半島地震では2名の技師を派遣したことを報告した。その後、県より、エコー検査機等の医療機器の手配についての問い合わせがあった。日臨技との災害支援協定では、「検査機器は日臨技が調達して供給する」とある故、DVT機器も含まれるという認識で良いか日臨技に対して再確認を行った。県に対して、日臨技より機器を調達していただくことにより対応する旨を報告した。

12月、県より、災害派遣時に検査機器を破損してしまった場合の修理費用についての問い合わせを受けた。検査機器は日臨技に調達してもらうため、日臨技としての対応について日臨技へ問い合わせを行った。日臨技としては、まずは自治体と地臨技の協定内で費用保障を盛り込んで欲しい意向があるとしつつも、協定締結の趣旨は何かあった際に呼んでもらうことを第一優先とするため、金額面での部分は次期改正時に少しずつ考えていく部分として良いのではないかと回答であった。これを受け、県に対し最低限の修理費用を盛り込んだ形での協定書の締結を打診した。県からは、修理費の高額な費用が発生した場合に対応ができかねないとの回答であった。また、掛け捨ての保険などに加入するという提案を受けたが茨臨技では対応しかねるため、現時点で機器が故障した場合に茨城県においても茨臨技においても修理費用の保障がないが、どのように対応すべきか日臨技に再度相談。費用保障については今後の課題部分になるが、現状はそれで構わないとの返信であった。県に対して、協定書では、茨城県としての費用保障は盛り込まない形で構わない旨を伝えた。

2025年1月、協定書(案)が県より届く。日臨技に対し、協定書では検査機器が故障した場合の費用保障については茨臨技となっているが、実際お借りした機器が故障した場合は日臨技に対応していただくことについて再確認を行い、理事会での審議となった。

2月、理事会審議での承認を経て、県との調印に至った。今後の課題としては、機器が故障した場合の費用保障について、日臨技との協定書内で明確にすべきであると考えられる。また、機器の調達については、関東甲信越臨床検査薬卸連合会との協議も検討が必要かと考えられる。更に、DVT検診についての研修や災害発生時の訓練も行って行かなくてはと考えている。

(編集後記) 3月11日、東日本大震災から14年目を迎えました。今年は大船渡での山火事もあり、災害の恐ろしさを改めて感じました。都道府県と地臨技の災害時協定の重要性を再認識し、日頃からの備えを怠らないようにしましょう。臨床検査技師として、災害時にも病院検査室機能の維持、迅速な検査データの提供、避難所での感染症対策・管理への協力ができるよう、皆様と共に歩んでいきたいと思っております。(鈴木)